

鵜の木地区地域情報紙 第119号

さんぽみち



発行：地域力推進鵜の木地区委員会
 編集：鵜の木地区 地域情報紙編集委員会
 事務局：鵜の木特別出張所
 電話 (3750)4241 FAX (3750)2418

鵜の木特別出張所管内の人口
(令和8年4月1日現在)

男 12,758人

女 14,351人

計 27,109人

世帯数 15,587世帯

一方、地域の活動を続けていくためには、担い手づくりも欠かせません。そこで昨年鵜の木地区の千鳥南町会では、町会活動への関わり方を多様化させ、「いきなり役員」ではなく「できる範囲から関われる」仕組みづくりを進めています。住民アンケートで声を集めたり、行事や広報、防災などを支えるサポーターを募ったりすることで、地域に関わる人を少しずつ増やしていきたいと考えています。本紙の2・3面では、住民アンケート調査やサポーター募集の取り組みを紹介しています。みなさまの声と一歩が、鵜の木の未来をつくりたいです。ぜひご覧ください、無理のない範囲でご参加・ご協力をお願いいたします。

令和7年度は、前年の生徒の提案を受けて、Instagramを使った写真投稿イベントや体力測定企画などを、実際の地域活動として形にすることができました。「提案が提案で終わらず、地域で実現する」ことが鵜の木の大きな特徴になりつつあります。また昨年11月から新たな授業が進み、代表班の発表会では、食品ロスとウォーキングイベントを組み合わせるなど、斬新で実現可能性のあるアイデアがたくさん出ました。連合会としては、「未来のまちづくり賞」「ヘルスイノベーション賞」「みんなを笑顔にする賞」などを設けて表彰し、生徒のみならず、地域の挑戦を後押ししています。そして令和8年度からは、この取り組みが7中のコミュニティスクールの柱として位置づけられ、学校と地域が継続的に連携できる土台も整いつつあります。今後も、提案を、提案で終わらせず、健康づくり等の活動へ実装につなげ、次世代と一緒にまちをつくる流れを、さらに一段強めていきます。

鵜の木地区では近年、地域のつながりを次の世代へ引き継いでいくために、「学校と地域が一緒にまちをつくる」取り組みを大切にしてきました。中心となっているのが、大森第七中学校との総合学習です。令和6年度から地域課題の解決に向けて授業が始まり、生徒のみならず、自分たちの視点で地域を見つめ、考え、提案してきています。

中学生のアイデアが、まちの活動になる鵜の木へ

鵜の木地区町会連合会会長 鵜の木二丁目町会会長 堀江 敏雄



写真は「未来のまちづくり賞」を受賞した提案です。大森第七中学校旧一年生から全30の提案をいただきました。七中生からの提案内容は鵜の木特別出張所で閲覧できます。ご来所の際、ぜひご覧ください。

3 すべての人に健康と福祉を
11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsゴール (国連で採択された持続可能な開発目標)

令和8年度行事予定

開催時期が変更になることがあります。詳細は各町会掲示板等でご確認ください。ぜひご参加ください。

- 4月26日(日) 大田区子どもガーデンパーティー(せせらぎ会場)
- 5月28日(木) 鵜の木地区一斉清掃
- 10月 鵜の木地区連合運動会
- 9~12月 各学校防災活動拠点訓練
- 3月 高齢者ふれあいフェスタ

今後の行事予定も「イベント情報」から確認できます。

鵜の木地区町会連合会公式LINE
ぜひお友だち登録してください!



2026年4月1日から自転車の違反に『青切符』が導入されました!!

詳しくは、次回号(120号)または、右側のQRコードからご確認ください。



うのきのイベント

各町会のイベントにたくさんの地域の方にご参加いただきました。

町会名	防災訓練		餅つき	
	日時・場所	参加人数	日時・場所	参加人数
鵜の木東	12月 7日(日) @鵜ノ木八幡神社	約100名	2月22日(日) @鵜ノ木八幡神社	約600名
鵜の木西	11月 9日(日) @鵜の木松山公園	※雨で中止		
鵜の木二丁目	10月 5日(日) @嶺町小学校	約30名	12月 7日(日) @鵜の木二丁目町会会館	約210名
鵜の木三丁目			12月14日(日) @鵜の木三丁目町会会館	約250名
千鳥南	12月 7日(日) @つきやま公園	約250名	12月 7日(日) @千鳥南町会会館	約250名
千鳥北	12月14日(日) @お祭り広場(千鳥町駅付近)	※雨で中止	12月14日(日) @お祭り広場(千鳥町駅付近)	約100名
南久が原一丁目	11月15日(土) @南久が原児童公園	約150名	12月 7日(日) @南久が原児童公園	約300名

月日	イベント	参加人数	開催場所・受付場所
10月 4日(土)	ふれあいまつり	約300名	南久が原児童公園
10月26日(日)	ハロウィン	子ども115名 保護者40名	千鳥南町会会館
10月29日(水)	ハロウィン祭り	約1,000名	栄会通り
1月11日(日)	鵜の木三丁目どんと焼き	約250名	多摩川多目的広場(嶺町小前通り)
2月 3日(火)	節分(豆まき)	子ども120名 大人50名	鵜の木三丁目町会会館
2月 3日(火)	節分祭	約30名	鵜ノ木八幡神社

募 金

赤十字会員募集運動
1,189,136円

赤い羽根共同募金
1,159,824円

歳末たすけあい募金
1,767,570円

たくさんのご協力
ありがとうございました。

第20回 高齢者ふれあいフェスタ
3月2日(月) @大田区民プラザ 約300名

「集える喜び 楽しいフェスタ」に、ご来場・ご協力くださった皆様、大変ありがとうございました。第1部は濱乃志隆さんの落語と音楽のステージ。第2部は協力各社・団体・3つのふれあい元気塾の趣向を凝らしたブース。楽しんでいただけたと思います。地域の方々の笑顔があふれるフェスタが、今後も続きますよう、よろしく願いいたします。(実行委員長 貝増 ますみ)

表彰

大田区区政功労者表彰
自治会・町会(会長・副会長)
10年以上在職

岩間 弘 (鵜の木三丁目町会副会長)

防災市民組織等感謝状贈呈
市民消防隊員40年
近藤 好秀 (鵜の木二丁目町会)

市民消防隊員20年
本田 秀幸 (鵜の木西町会)

市民消防隊員10年
金子 一 (鵜の木西町会)
中村 愛 (鵜の木二丁目町会)
瀧田 沙織 (千鳥南町会)

(敬称略)

編集後記

新緑の季節を迎え、鵜の木地区にも清々しい風が吹き始めました。本号では、大森第七中学校の生徒の皆さんによる「地域課題解決」の取り組みや、町会サポーターなど若い世代が関わる地域活動を紹介しています。地域の課題を自分ごととして考え、行動する姿に、これからのまちづくりを担う新しい力を感じました。長年地域を支えてくださっている皆様と次の世代がつながりながら、これからも住み続けたいまち・鵜の木を皆さんとともに育んでいきたいと思えます。

編集委員(事務局) 片寄 洋志

編集委員紹介

今年度の「さんぽみち」の編集委員です。よろしくお願ひします。

岡 希久子 岡本 信夫
鳥谷 容子 村松 茂
貝増 ますみ 山口 義晴
岩田 久美子 田中 克美
井上 純一 永岡 光三
中島 勝彦 吉崎 迪三
鳥塚 麻澄 前澤 里香
(事務局) 矢後 貴英所長
大黒 洋平副所長
潮田 弘志

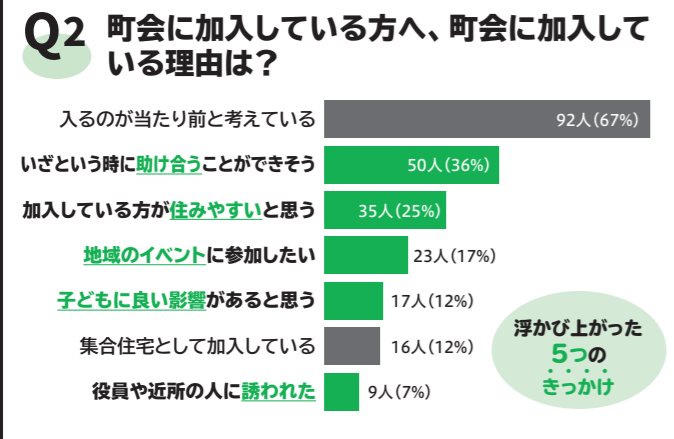
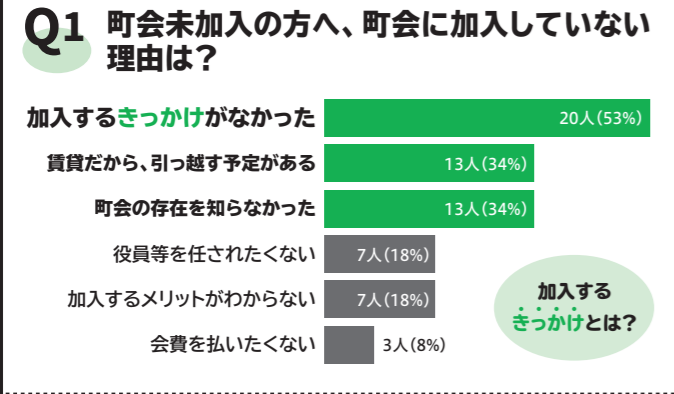
次回の発行日は2026年(令和8年)9月1日(火)です。

千鳥南町会アンケート結果から見えてきたこと

目的 「情報の届き方」「町会活動参加の障壁」「町会サポーター募集の可能性」を把握する。

実施概要 町会加入、未加入に関わらず、町会エリア内の1,600世帯へ配布。185件の回答があった(回答率11.6%)。回答方法はWeb58%、紙42%。

今回わかったこと



Q3 町会主催イベントや地域の子どもたちを育む活動、情報発信などに協力いただけますか?

→ 回答者185人中39人が町会サポーターとして協力できる、もしくは関心があると回答。

アンケート回答者の声

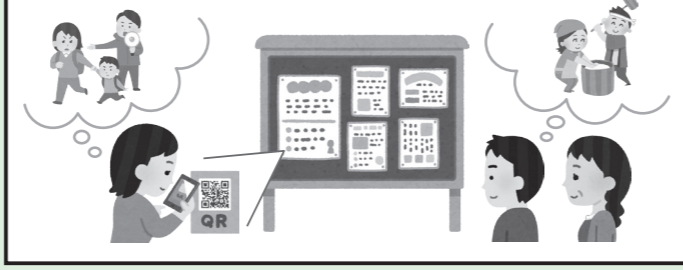
- 単発でも自由に町会のサポートができる機会があれば参加させていただきたい。
- できる範囲で協力するので安全でよい地域にしましょう。

Q4 町会主催イベントへ参加したことがない方の理由と割合は?

→ 「実施していたことを知らなかった」..... 約43%
 「内容や参加方法が分からなかった」..... 約15%
 「参加してよいかわからなかった」..... 約17%

興味・関心を持つ人を巻き込む「きっかけ」とは

- ① 若者・単身世帯・賃貸住宅居住者でも、町会に興味や関心をもつ方が一定数いる。ただし仕事や生活リズムがまちまちなため、町会への加入ではなくイベントごとの関与を選びたいという意識が見える。
→ **だから「ゆるく」「気軽に」がポイント**
- ② 多くの行事について「知らなかった」という回答が目立ったため、行事の参加方法(対象者、費用、申込方法、当日の流れ、持ち物)を示したり、回答者の6割が情報源として活用している町会掲示板にSNSを組み合わせて、さらに参加しやすい広報を行う。



町会サポーターとは?

加入しなくてもOK 短時間・単発でも助かります

例) 受付→1時間だけ
 誘導→30分だけ
 写真→撮って共有
 片付け→最後の20分だけ
 広報→チラシ作成補助など

合言葉は「できるときに、できることを」

町会サポーターを募集しています!

千鳥南町会

鶯の木東町会

南久が原一丁目町会
 メール: skugahara50@gmail.com

地域とつながるきっかけは?

地域との関わりは、ほんの小さなきっかけから始まります。アンケートを通じて見えてきた住民の本音、そしてそこから広がりはじめた“町会サポーター”という新しい参加のかたち。短時間でも気軽に関われる仕組みが、人と人の距離を縮め、地域のつながりを育んでいます。今回は、アンケート結果と実施町会からのメッセージ、そして実際に町会サポーターとして活動している方のインタビューを紹介します。

南久が原一丁目町会長 野口 伸雄 より

アンケートはあくまできっかけで、その後の顔の見える付き合いが大事でした。最初はきっかけを求めて、まず班長さん向けアンケートで意識を探りました。班長さんは交代するので、ここ数年毎年アンケートを取っています。回答で反応の良かった人を中心に、まず行事への手伝いをお願いしました。そういう機会が増えてくと町会員同士の連帯が芽生え、その中から今後の町会を担うような若手の役員が育ってきました。顔の見えるお付き合いが、まず基本だと思います。

千鳥南町会長 細田 政男 より

アンケートを見て、ホッとしたのは“町会活動をやりたくない”ではなかったことです。多かったのは、「行事を知らなかった」「参加の仕方が分からなかった」という声でした。そこで、加入・未加入に関係なく、短時間・単発で参加できる“町会サポーター”を広げます。受付1時間、片付け20分、写真係だけでも大歓迎です。無理のない範囲で、ぜひお力を貸してください。

南久が原一丁目町会サポーター 40代男性

私は2019年春に大阪から一家で転入しました。夏祭りや餅つき大会の賑わいに驚き元気を頂きましたが、翌年のコロナ禍で一変。次は自分が笑顔をお返ししたいと、思い切って町会活動に参加、同世代の方々と共に現在4年目を迎えます。お隣の千鳥北町会の皆様とはお神輿のご縁もあり、昨年はお祭りや餅つき大会と一緒に盛り上げていただきました。地域の輪が広がる喜びと助け合いの心強さを実感しています。子ども達やお年寄の笑顔を励みに、時に真剣に、力を合わせてワイワイガヤガヤ楽しむ活動は面白いですよ!地域での温かい思い出が、子ども達への将来の贈り物になると嬉しいです。子育て現役世代の方も、ぜひお気軽にご参加ください!

千鳥南町会サポーター 50代女性

知り合いの町会役員さんから誘われました。子どもが小さい時、お祭りやバスハイクでお世話になったので、お返ししたいという気軽な気持ちで参加しました。イベントに参加した子ども達からの「ありがとう」町会の役員さん達からの、手伝ってくれて「ありがとう」たくさんの温かい「ありがとう」の言葉を頂いたことで、とても満たされた気持ちになりました。地域に自分の役割があることを実感しました。

千鳥南町会サポーター 40代男性

災害時に地域の人達と協力しあえる関係を作っておきたいと考えていたところ、住民アンケート&サポーター募集を見て、興味を覚えました。仕事関係や家族でもなく、年齢、職業もバラバラな人達と一緒に活動することは、新鮮な気持ちになります。防災訓練では、災害への備えと地域の人達の協力が必須で、日頃の繋がりが支えになると感じました。



もちつきイベントでは、『スタッフ腕章』を町会の方が用意してくれ、みなさまと一緒に作業できました。